



下呂温泉と白鷺

薬師如来が傷ついた白鷺に姿を変え、源泉のありかを村人に知らせたと伝えられている。(下呂市ホームページより)

# 歩いて楽しい温泉地の実現に向けて

## ～下呂温泉地区の街並み・景観形成の取り組み～

浅野 健

温泉は昔も今も日本を代表する旅行形態の一つである。全国の温泉地の多くは団体客を囲い込むために宿泊施設を大規模化してきたが、近年は個人客が主流となり、まち歩きを楽しむ観光への対応が求められている。このような状況は全国有数の温泉地である下呂温泉地区でも例外ではない。そこで、ここでは下呂温泉地区における街並み・景観形成に向けた取り組みを紹介する。



### 下呂温泉地区の概況

下呂温泉地区は、千年の歴史を持つ温泉観光地で、有馬・草津と並び「日本三名泉のひとつ」と称されている。名古屋駅から約一時間半でアクセスでき、岐阜県内、愛知県などの近県、関東や関西など全国から年間百万人もの宿泊客が訪れている。JRで下呂駅からさらに北上すると小京都高山に三十分でアクセスできるなど、周辺にも観光地が多く存在する。しかし、最盛期の一九九〇年と比べると宿泊客は六十万人以上減少している(ただし、二〇〇五年は愛・地球博の波及効果で観光客が多少増えることが予想される)。

### 下呂温泉まるごとミュージアム構想

このような状況の中、下呂温泉地区では、ギャラリーマップを片手に散策できる温泉街を作ることを目的とした「下呂温泉まるごとミュージアム構想」を掲げた。これに関連する事業として二〇〇〇年頃から、空店舗を活用した二店の湯之街ギャラリー「さんぽ道」(写真3)、「木精(こだま)」(写真4)の設置、足湯の設置(写真5)、湯めぐり手形の発行(写真6)、絵手紙の募集、スタンプリーの実施、各店舗がそれぞれオリジナルのれんの設置(写真7)等々、官民が協力をしながら取り組んでいる。このような取り組みを進めた結果、観光客が温泉地区を少しずつ歩くようになりつつある。

### 歩いて楽しい温泉地に向けての課題

昨年から下呂温泉地区に何度か足を運び、関係者へのヒアリング、訪問客を対象としたアンケート、関係者の情報を共有するためのワークショップを実施した結果、幾つか課題が浮かび上がってきた。一つは、温泉地区には足湯が六箇所設置されているが、全体に施設が大規模化して内湯になってきているため湯けむりは見られない(写真1)・看板が目立つ(写真2)・電柱・電線が目立つ・道路のカラー舗装に統一感がなく温泉街の雰囲気にはそぐわない、など温泉情緒が失われている点である。二つ目は、温泉街の中の観光スポットや休憩施設の少なさ、舗装が凸凹していたり歩道の傾斜や段差があつて歩行環境が不十分、といった点など歩いて楽しむ環境としては課題が多い。ただし、この点については、現在、国のまちづくり交付金事業の採択を受け、少しずつ改善される予定である。

一方、温泉だけでも観光地としての魅力は十分であり、県内や近県を中心にリピーターが多いことも下呂温泉の特徴である。中心部には、一部昔ながらの街並み景観のある地区も残っている(写真8)。また、普段、地元の人になかなか気づかないものとして、飛騨地方の歴史を伝える商家や空家が残っていたり(写真9)、温泉街から少し歩くと都会の人が癒される田園風景(写真10)や水路、神社仏閣などの地域資源が残っている。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

### 全国都市再生モデル調査

下呂温泉地区では、二〇〇五年度「歩いて楽しい街並み景観・風景形成調査」が全国都市再生モデル調査に選定された。調査内容は、景観・街並み形成に関する資源評価リストと施設の改修・改善マニュアル及び下呂観光・街並みガイド読本を作成するための資料収集・整理である。ゆのまち散歩道の会をはじめ地元ガイドボランティア、地元関係者が名古屋工業大学河田克博教授(歴史建築系研究室)とタイアップして、検討を進めている。

### 歩いて楽しい温泉街の実現に向けて

歩いて楽しい温泉街の実現に向けて必要なこととして、一つは、さらなる観光スポットの充実があげられる。これについては、今後もさらに充実していくことが期待できる。もう一つは、かつての温泉情緒を思い起こせるような街並み・景

観形成の視点があげられる。これについても、施設が大規模化した風景からは一見想像ができない新たな地域資源が発掘されつつある。

今後は、これらの地域資源を活かして個々の施設を修復・改修しつつ、看板の撤去、電線類地中化、道路の舗装の変更などによって、少しずつ街並みを形成していくことが望まれる。幸い、下呂温泉地区には商業関連団体、旅行関連団体、地元自治会、建築士会、自治体など活性化に取り組む人・団体は多く、都市再生モデル調査をきっかけとして、地域の人々が景観・街並みに対して共通理解を持ち、時間をかけながら下呂温泉地区の景観・街並みを再生していくことを期待したい。